

## 【天ヶ瀬ダム】

### 1. 事業の概要

特になし

### 2. 洪水調節

特になし

### 3. 利水補給

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
3.3.3 発電実績  本編 P3-10 概要版P.33	・近年の発電実績が減少しているのはなぜか。	<b>【当日回答】</b> ・東日本震災以降原子力発電所の原発の発電量が減少し、夜間の揚水量が減少していることが一因となっている。 <b>【当日角委員長補足】</b> ・九州で見られるように太陽光発電増により、昼間の電力に余剰が出ている。揚水力発電は、昼間にこの余剰を使い揚水することが常識化しており、近畿地整では、そのような状況にはないと考えられるが、揚水発電は、大きなバッテリーのようなものなので、どのように運用していくか治水とエネルギーのバランスを含めて、関係者との連携、協議が必要。一義的に原子力発電が止まれば、揚水発電が止まるということではない。	—

### 4. 堆砂

特になし

### 5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.4 水質変化  本編 P5-31,32 概要版 P. 50,54,62	・天ヶ瀬ダムと密接に関わる喜撰山ダムについて、水質や運用の情報が伝わっていない。発電のない期間に滞留し藻類が増加している可能性がある。水質調査をしないのはやむを得ないとしても、監視カメラの貯水池画像くらいは共有してもらいたい。	<b>【当日回答】</b> ・喜撰山ダムを管理している関西電力と連携して、水質を監視していく。	関西電力と連携して、水質を監視していく。
6.4 水質変化  本編 P5-97,98,164-179 概要版 P. 57,58	・流入河川である琵琶湖では、降雨パターンに加え、下水道の老朽化など、人の活動が変わってきている。大腸菌群数がどのような場合に増えるのか管理者として情報を集めておく必要がある。	<b>【当日回答】</b> ・大腸菌についても琵琶湖・洗堰と連携し、調査期間など、より細やかにできるように検討していく。	大腸菌についても調査期間など、より細やかにできるように検討していく。

## 6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.4 生物の生息 ・生育状況 の変化の検証  本編P6-187 概要版P.81	・水生生物の特定外来種増加について、考えられる要因及び地域と連携して駆除をされる予定について説明いただきたい。	【当日回答】 ・外来種の増加の要因としては明確にわかっているわけではないが、上流からの流入が考えられる。 ・琵琶湖でも外来種が増えているということ、また支川からの流入も考えられる。この点については、引き続き調査が必要だと思われる。 ・外来種駆除については、イベント的には近年実施していないが、定期的に周辺地域の方々と共に実施していくことが大切だと考えている。	—
6.4 生物の生息 ・生育状況 の変化の検証  本編P6-186 概要版P.80	・ダム湖の水位変動において、従来冠水すべきところが、冠水しなくなっていることが、今までと違った影響を与えているようであれば分析が必要である。	【委員会意見により修正】 ・冠水頻度の減少が工事に伴い人為的に貯水位を低く維持したことによることについて、概要版P80および本編P6-186に追記した。	—
6.4 生物の生息 ・生育状況 の変化の検証  本編p6-181 ～182 概要版P.74	・カワヒバリガイが数年前に洗堰で問題になったが、今後流域全体での対策などを考える必要がある。	【当日回答】 ・今現時点で具体的な対策の検討はできていないが、河床材料の影響を受けていると思われるため、検討していきたい。	—
6.4 生物の生息 ・生育状況 の変化の検証  本編p6-179 ～180 概要版P.74	・カワヒバリガイが外来種であることを資料中に明記したほうが良い。	【委員会意見により修正】 ・カワヒバリガイが外来種であることを本編P6-179に明記した。	—
6.4 生物の生息 ・生育状況 の変化の検証  本編p6-183 概要版P.77	・植物プランクトン相が非常に変わってきているが、これは琵琶湖のプランクトンの組成変化と一致しているのか、関連性について確認いただきたい。	【委員会意見により修正】 ・琵琶湖のプランクトン調査結果を収集・整理し、本編Pp6-184-185に追記した。	—

## 7. 水源地域動態 特になし